

麦類の作付け拡大

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島市では、主食用米が作付けされない 1,510ha の水田のうち、生産性がない保全管理等が 507ha、飼料用米・加工用米が 360ha で、収益性が高い麦類は 100ha にとどまっています。平成元年には 480ha に小麦が作付けられていましたが、平成5年の米の不作により生産調整面積が著しく緩和されたことと、取り組みやすい新規需要米が拡大したことで麦類の作付けは縮小しました。一方で農業者の規模拡大は進んでおり、稲作期間に作業が集中するため適期作業ができず単収は低下し、経営の悪化を招いています。このことから、主食用水稻や新規需要米の作付けを減らし、麦類の作付けを増やすことで稲作期間の労力を他の期間に分散し、水稻の適期作業が可能となり単収が向上し、土地利用型の認定農業者の経営改善を図ることをねらいとしました。

【普及活動の内容】

麦類の乾燥調製は、一般的にはカントリーで行われることから JA 等の関係機関に麦作付けの必要性を説明しました。一方、生産者の多くは麦栽培の経験がなく、高島市では麦類の作付けは困難だと感じており、過去のデータや栽培資料を使って研修会や個別指導を行い、説明しました。また、意識改善に向けて排水対策の実証ほを設置しました。



写真1 研修会の様子

【普及活動の成果】

麦の作付け推進について、関係機関と合意が得られました。また、JAでは麦の乾燥調製を市内で行うため、カントリーの整備について検討されはじめています。実証ほの単収は 478～685 kg/10aの多収が証明され、麦の作付け拡大に意欲的な生産者が増加しました。令和3年播きでは目標を上回る 126ha に麦類が作付けられました。

25 年間作付けがなかったマキノ地区でも作付けを希望する農業者がおられることから、令和4年播きでは飛躍的な作付け増加が期待できます。しかし、大麦の需要は飽和状態となっていることから、麦類の作付けを増やし続けるには小麦への転換が必要と考えられます。このことから、小麦「びわほなみ」の実証ほを今津と安曇川の2か所に設置し、積雪が多いマキノでも3か所で積雪の影響を確認します。

◎対象者の意見

麦の収益性が高いことをもっと早くに教えてほしかった。水稻を減らすことで作業も楽になるため、麦を一気に増やしたい。需要がある小麦への転換も期待している。(生産者)